

# 筑波大学新聞

第312号

編集責任 筑波大学新聞 編集代表 福原直樹  
TEL: 029(853)2040-6699  
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp  
月刊

発行所 筑波大学  
茨城県つくば市 天王台1-1-1

## 卒業生の自転車無料回収

### 整備し新入生に販売

筑波大学は今年から、卒業していく学生の自転車を回収・整備し、新入生などに1台5000円程度で販売していく。同大では毎年、卒業生らが放置した自転車が平均約1400台にのぼっており、ユニークな放置自転車対策として注目されそう。また同大は平成27年度にも、自転車・バイク登録制度を総合的に管理していくセンターを設置する予定で、これらの施策を通じ、開学以来続く自転車問題の抜本的解決を目指すという。(鈴木拓也 人文学類2年)

同大学生生活課による「学生などに呼びかけ、自転車を無料で回収。パンクしにくいタイヤに交換するなどの整備した上で、自転車マーク3を貼った上

で、希望者に販売する。同課では今年、100台程度の回収を見込んでおり、整備後の自転車は学生宿舎の管理事務所などで展示・販売する予定だ。これまで放置自転車の処分には費用がかさみ問題となっていたが、今回の計画でこの削減も見込まれる。同課は卒業などで大学を離れる学生に対し「自転車の処分についているなら後輩のために提供してほしい」と呼びかけている。

## 大学ラグビー選手権大会 3年連続の4強



早稲田大の守備を振り切りトライを狙う筑波大

【国立競技場で富田慎二(日本語・日本文化学類1年) 大学日本一を決める第50回全国大学ラグビー選手権大会の準決勝が1月2日、国立競技場(東京都新宿区)で行われた。筑波大学は5大会ぶりの頂点を目指す早稲田大学と対戦したが、11-29で惜しくも敗れ、2年連続の決勝進出はならなかった。筑波大は昨年12月に行われた第2ステージを3戦全勝で突破し、3年連続の4強入りを決めていた。(9面に関連記事)

2年連続の決勝進出を狙った筑波大だったが、日本代表の福岡賢樹(情報2年)に対する厳しいマークや、相次いで反則を取られたことで、スクラムから地道に攻撃を重ね、トライを決めるという本来のゲーム展開に持ち込めなかった。前半6分に山沢拓也(体育1年)が風下という厳しい条件にもかかわらずペナルティゴールを決めて先制する。10分には山沢拓也が主将の内田啓介(同3年)からパスを受けて4年)からのパスを受けてトライ。しかしその後、筑波大はゲームの流れをつかみきれずミスが相次ぎ、20

## 決勝進出ならず

分、早稲田大にトライを決められる。26分にはペナルティゴールで逆転を許し、8-10で前半を折り返した。後半、筑波大はゴールライン目前に何度も迫り、スタンドからは筑波ゴールが沸き起こった。だが、早稲田大のディフェンスを崩せずにいると、逆に28分にスクラムで押し切られトライを奪われた。31分には山沢がペナルティゴールを決め、11-15と早稲田大に4点差まで迫るが、34分にトライを許し、直後37分にもダメ押しでトライを決められた。試合終了のアザーがた。一方、主将の内田は「昨年決勝で敗れた帝京大(体育系・准教授)は19月の対戦で早稲田大に負けていたので対策は行ってきたが、うまく生かされず攻撃につなげる体制が作れなかった」と敗因を語った。一方、主将の内田は「



試合後、悔しさを見せる選手たち

## 警察、大学と防犯対策検討

筑波大学学生生活課によると、同課はストーリーなどの相談に来た学生を対象に2010年ごろから学生に防犯グッズを提供している。グッズの中にはストッパーを外すと高音を発する電池式の防犯アザーや服などに簡単に巻きつけることができる蛍光塗料バンド、小型懐中電灯などがある。つくば中央署との連携について、同課は「有効な対策があれば、取り組んでいきたい」としている。

筑波大学学生生活課によると、同課はストーリーなどの相談に来た学生を対象に2010年ごろから学生に防犯グッズを提供している。グッズの中にはストッパーを外すと高音を発する電池式の防犯アザーや服などに簡単に巻きつけることができる蛍光塗料バンド、小型懐中電灯などがある。つくば中央署との連携について、同課は「有効な対策があれば、取り組んでいきたい」としている。

## 街灯ない場所で続く

同署への取材によると、事件が発生したのは12月4日午前2時ごろ。大学から徒歩戻り、つくば市春日4丁目の自宅アパートに入ろうとした女子学生が突然、背後から来た男に口をささげられ



つくばに街灯を

ると、犯人の男は身長約170センチ、痩せ型で、年齢は40代後半から50代前半とされる。また髪の毛はぼさぼさで、無精ひげを生やしていたという。同署への取材では、現場近くのコンビニの防犯カメラが犯人の映像を一部、捉えていたが、その映像などは、男は女子学生の後をついていった可能性が高いという。同署ではこの映像解析を行い、男の割り出しを急いでいる。

本紙で事件・事故取材を担当している。その中で昨年、筑波大学周辺で路上わいせつ事件が増えている。街灯が整備されていない暗さを悪用し、女子学生に生涯忘れぬ辛い思いをさせる犯罪。一つ間違えば、重大事件に発展する可能性もある▼現場付近の道を実際に歩いた。やはり暗く街灯を建てほしい、警察にはパトロールを増やしてほしい、と切実に思った。幸い、記事には多くの反響があり、ある卒業生からは「自らも怖い思いをした」「キャンパスを続けてほしい」との連絡があった▼記者としての手ごたえを感じたが、取材するうちに、別の感想を持ったのも事実だ。ある取材先は「筑波大生の防犯意識が低い」と話した。飲み会の後、深夜に一人で帰る学生。午前2時にジョギングを行う学生。実例を示しながら、その取材先は学生に自戒を求めた▼昨年、同様に多発したのは深夜に居住者が寝ている間に部屋に侵入する「忍び込み」と呼ばれる窃盗事件だった。住民の学生たちは玄関のオートロックを過信して、自らの部屋の施錠を怠り、被害にあっていた▼自らの安全は他人に任せきりにせず、まずは、自分ができるところを考えた。そのことの重要性を痛感する。二人の社会人としての自立」。今年、故郷の成人式で聞いた言葉の意義を、考え続けている。

## わいせつ事件やまず

筑波大学周辺の街灯が整備されていない路上で深夜、女子大生を狙う路上わいせつ事件(暴行を含む性的嫌がらせ)が急増している問題で、昨年12月に帰宅途中の筑波大生が、中年とみられる男に口をささげられたり腹部をおさえられる事件が起きていたことが分かった。学生の悲鳴で男は逃走したという。一連の事件を受け、つくば中央署では防犯グッズの貸し出しなど、筑波大と協力して防犯対策を行うことを検討している。(本紙取材班3面に関連特集)

高性能電池開発	2
けやき棟	5
女子サッカー	8
ラグビー	9
本紙に感謝状	10
大学方面バス	11
充電時間大幅に短縮	2
「病院アート」展覧会開催	5
インカレで初の準優勝	8
2013シーズンを振り返る	9
防犯意識向上に貢献	10
学生の提案で深夜便増発	11
ミニ特集	3
街灯設置の現状を探る	3
特集	6,7
平成25年度 激動の1年を追う	6,7



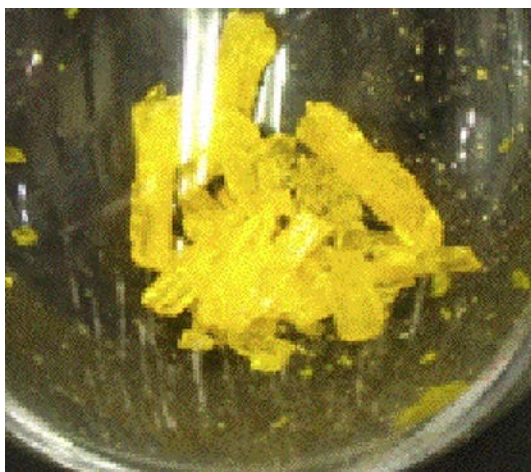
大学が提供する防犯アザー(左下)などの防犯グッズ

## 筑波おし

本紙で事件・事故取材を担当している。その中で昨年、筑波大学周辺で路上わいせつ事件が増えている。街灯が整備されていない暗さを悪用し、女子学生に生涯忘れぬ辛い思いをさせる犯罪。一つ間違えば、重大事件に発展する可能性もある▼現場付近の道を実際に歩いた。やはり暗く街灯を建てほしい、警察にはパトロールを増やしてほしい、と切実に思った。幸い、記事には多くの反響があり、ある卒業生からは「自らも怖い思いをした」「キャンパスを続けてほしい」との連絡があった▼記者としての手ごたえを感じたが、取材するうちに、別の感想を持ったのも事実だ。ある取材先は「筑波大生の防犯意識が低い」と話した。飲み会の後、深夜に一人で帰る学生。午前2時にジョギングを行う学生。実例を示しながら、その取材先は学生に自戒を求めた▼昨年、同様に多発したのは深夜に居住者が寝ている間に部屋に侵入する「忍び込み」と呼ばれる窃盗事件だった。住民の学生たちは玄関のオートロックを過信して、自らの部屋の施錠を怠り、被害にあっていた▼自らの安全は他人に任せきりにせず、まずは、自分ができるところを考えた。そのことの重要性を痛感する。二人の社会人としての自立」。今年、故郷の成人式で聞いた言葉の意義を、考え続けている。

関口教授ら研究グループ

非金属の高性能電池を開発



ケイ素ラジカルの結晶

関口章教授(数物系)ら。ケイ素は豊富に存在する元素で、従来の充電電池に用いられる金属よりも入りが容易。ケイ素ラジカルを用いた電池では、高速での充電もできると期待されている。

充電時間は60分の1以下に

同グループは、リチウムのような希少金属以外の物質を用いて充電電池が作れないか研究を開始。その結果、ケイ素と有機物を化学結合させた「ケイ素ラジカル」が最も充電に適していることが分かった。

21世紀末の気温・降水量を予測 東京は約3度上昇か

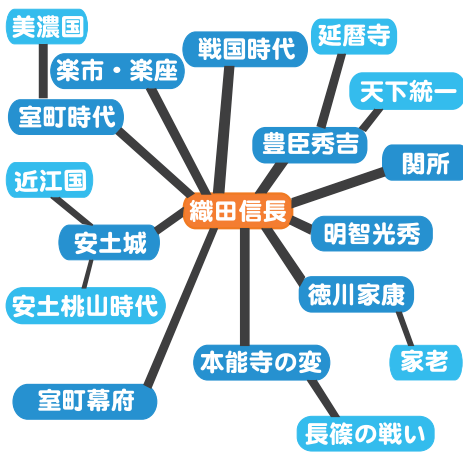
日比野研志(生環系)らの研究グループは、地球温暖化が進んだ場合、21世紀末の東京の気温が約3度上昇する可能性があることを発表した。...

日比野研志は「この結果が、地球温暖化を抑止するための研究のきっかけになってほしい」と話している。

同グループは世界約200の国や地域を対象に2075年〜99年の月別平均気温と降水量を予測。...

「関連語マップ」運用開始

単語の関連度を図で表示



「マップ」の一例(学研キッズネットより作成)

計算知能・マルチメディア研究室所属の佐藤裕也さん(知機2年)と学研教育出版は、単語と単語の関連度を分かりやすく表示する学習支援システム「関連語マップ」を共同開発し、2013年11月からインターネットサイト「学研キッズネット」で運用が開始された。

「関連語マップ」は、例えば「織田信長」と検索すると、画面の中心に表示された「織田信長」の語を囲むように「安土城」や「本能寺の変」などの関連語句が表示される。

語は「織田信長」と太い線で結ばれる。一方、「安土城」の関連語である「安土桃山時代」という語は、「安土城」と細い線で結ばれる。

基となるデータは学研教育出版が持つ歴史や理科、国語などの学習辞書・事典の約2万項目で、入力した単語の関連用語を算出し、単語間の関連度合いを...

佐藤さんはこのシステムの基となる計算式を作成した河内沙織さん(平成24年度シス情科卒業)の研究を引き継いだ。...

学研教育出版と共同で

医学類定員増

来年度から9人を増員 医師不足解消に期待

筑波大学は昨年12月20日、平成26年度個別学力検査(前期日程)などで医学部医学科の定員を増員する計画を進めている。...

筑波大によると、同教授は「昨年の夏、学外の飲食店で女子学生と飲酒した。自ら予約したホテルに女子学生を連れ込んだ。...

同教授は問題事実と認め「女子学生には申し訳ないことをした。大学の信用を失墜させ、深く反省している」と謝罪したという。

第8回「科学の芽」賞

小・中・高校生が研究を発表 ユニークな視点に大人も感心

小・中・高校生を対象に、科学や自然現象についての優れた研究を募集する朝永一郎記念第8回「科学の芽」賞の表彰式が昨年12月21日、筑波大学大会館ホールで行われた。

学(学長)の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を高めることを目的に、筑波大が主催している。今回は2050件の応募があり、小学生部門で8件、中学生部門で9件、高校生部門3件が受賞した。



永田学長から表彰状を受け取る中学生

表彰式に訪れた第1回「科学の芽」賞受賞者の木村あかねさんは「大人にはない面白い発想の研究ばかり。子どものひらめきに学ぶことが多くあり、筑波大の研究者全員に来てほしい内容だった」と話した。

薬物防止で世界をリードへ フェアプレーの精神根付かせる

筑波大学は昨年11月28日、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と連携及び協力に関する協定を締結した。

日本アンチ・ドーピング機構と協定締結 筑波大学は昨年11月28日、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と連携及び協力に関する協定を締結した。

「スポーツに関わらない人にも、公正さや真摯な取り組みに連なる「フェアプレーの精神」を理解してもらい、スポーツ界のみならず一般社会に通じるアンチ・ドーピングの概念に気付かせることが狙いだ。

また、日本では禁止薬物使用者は少ないものの、総合感覚薬の使用などによる「うっかりドーピング」が目立っている。禁止薬物を協定していた。今回の協定

締結で協力体制はより一層強化される見込みで、筑波大は、医学や倫理学などの分野でも研究を進める予定だ。

JADAの委員も務める渡部厚一准教授(体育系)は「アンチ・ドーピングはフェアプレー精神の象徴であり、社会全体に浸透させるべきものだ。スポーツに興味がない人にも関心を

「科学の芽」賞は、ノーベル物理学賞を受賞した朝永一郎博士(東京教育大)の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を高めることを目的に、筑波大が主催している。今回は2050件の応募があり、小学生部門で8件、中学生部門で9件、高校生部門3件が受賞した。

「科学の芽」賞は、ノーベル物理学賞を受賞した朝永一郎博士(東京教育大)の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を高めることを目的に、筑波大が主催している。今回は2050件の応募があり、小学生部門で8件、中学生部門で9件、高校生部門3件が受賞した。

「科学の芽」賞は、ノーベル物理学賞を受賞した朝永一郎博士(東京教育大)の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を高めることを目的に、筑波大が主催している。今回は2050件の応募があり、小学生部門で8件、中学生部門で9件、高校生部門3件が受賞した。

「科学の芽」賞は、ノーベル物理学賞を受賞した朝永一郎博士(東京教育大)の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を高めることを目的に、筑波大が主催している。今回は2050件の応募があり、小学生部門で8件、中学生部門で9件、高校生部門3件が受賞した。

「科学の芽」賞は、ノーベル物理学賞を受賞した朝永一郎博士(東京教育大)の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を高めることを目的に、筑波大が主催している。今回は2050件の応募があり、小学生部門で8件、中学生部門で9件、高校生部門3件が受賞した。

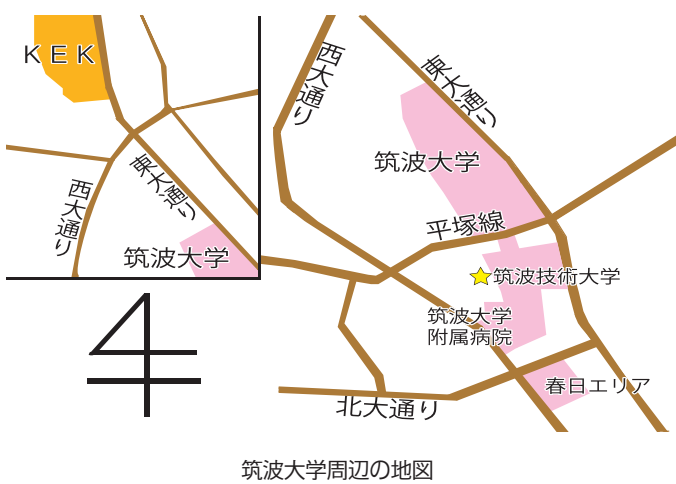
# 街灯設置の現状を探る

筑波大学周辺で夜、街灯が整備されていない路上での女子学生に対するわいせつ事件(暴行を含む性的嫌がらせ)が続いている。「街灯がない暗い道は怖い」「二重わたり」と思うと気が気でない……。本紙の取材に答える学生たちの思いに、大学や自治体、自治会などはどう応じようとしているのか。つくば市では一部の研究機関が、独自に敷地に明かりをつけるなど自衛策をとっている。各機関の対策や今後の計画を探った。(本紙取材班・鈴木拓也) 人文学類2年、平嶋健人 社会学類2年

## KEKの取り組み

街灯が整備されていない問題で、独自に整備を行った機関がある。つくば市大

穂にある高エネルギー加速器研究機構(KEK)だ。KEKは加速器を用いて物質の成り立ちなどを研究する大学共同利用機関法人だが、付近で不審者が出没する事件が発生したのを機に敷地の東大通り沿いに街灯



筑波大学周辺の地図

## つくば市の取り組み

街灯の不足に対して、つくば市はどのように対応しているのだろうか。同市の防犯灯を管轄する危機管理課の長卓良課長と小川高徳交通防犯係長に聞いた。

長課長によると、つくば市では夜間の犯罪や事故を未然に防ぐため、防犯灯を年間300〜400本設置してあり、現在、同市には1万8000以上がある。それではなぜ、筑波大学周辺で街灯などが無整備な暗い場所があり、そこで「路上わいせつ」の犯罪が多発するの

## 「技術大前は迂回してほしい」

長課長によると問題は、防犯灯を設置できない場所があることだ。今回、筑波技術大学(つくば春日4丁目)前の通りの街灯が無整備で事件が多発したが、そこでは電柱がないため電線を引くことができず、設置できないという。小川係長は「電気を引かなくても済むソーラーパネル付きの防犯灯は通常の約5〜10倍の値段で、設置工事にも費用が掛かる。一カ所にお金をかける訳にもいかず、申し訳ないが設置は厳しい」と話す。



つくばに街灯を

## 要望実現せず独自に設置

関係機関への要望ならずKEKの総務課によると、KEKの周辺はもとより暗く、2006年7月、関係で結局、街灯の設置は実現



KEKが敷地内に独自に設置した街灯

## 筑波大の取り組み

大学も県、市に要望筑波大学の取り組みはどうか。今後の計画を

「大学も県、市に要望筑波大学の取り組みはどうか。今後の計画を

## 「大学周辺を明るくして」

また09年には、大学付近で暴行事件や交通事故が多発したことから、県の土木事務所に平塚線沿いの街灯設置と植え込みの

また09年には、大学付近で暴行事件や交通事故が多発したことから、県の土木事務所に平塚線沿いの街灯設置と植え込みの

## 自治会の取り組み



東條三郎さん(66)に話を聞いた。街灯の設置費用や電気料金は市の負担で、自治会からはお金を出していない。

自治会では、街灯の設置費用や電気料金は市の負担で、自治会からはお金を出していない。

## 「街灯がないのは防犯上危険」

筑波技術大学(つくば市春日4丁目)前の通りが特に暗い。大きな交通事故を起さないが、わいせつ事件が多発している。春日4丁目には多くの学生や子どもがいて、防犯上危険な場所だ。暗ければ暗いほど犯罪が発生しやすいので、新たな被害者が出ないか心配だ。

街灯の電球が切れたり、センサーが故障した時には、自分たちの判断で業者を呼んで工事してもらっている。工事費用は自治会が1時的に立て替えるが、年度末に一括して市に費用を全額請求している。



北大通り沿いにつけられた街灯

設置の要望は絶えない。学生生活の問題を話し合うクラス連絡会や、2年に一度実施される「学生生活実態調査」で毎回、「街灯」の求めがあるほか、全学学類・専門学群代表者会議が企画したつくば市長との懇談会でも街灯に関する質問があがった。

これに対し、学生生活課のある職員は「大学から1歩外へ出る暗い、というのが現状だが、大学の周囲を明るくするために、県や市の協力が必要になる」と指摘。「市は大学周辺をもっと明るくするべきだ。事件や事故を未然に防ぐためにも真剣に対応してほしい」と話す。また、施設課環境課では、「現在のところ新たに街灯を設置する計画はない」と話す一方で、「市内から要望があれば検討したい」としている。



# 筑波大学附属病院 「けやき棟」に学生の作品展示



病院内に展示された学生の作品

## アートを通じて患者と交流

筑波大学芸術専門学群とアート「芽」が昨年12月から5月30日まで附属病院けやき棟で開かれている。「病院アート」は入院患者やその家族が快適に過ごせる空間作りを目指す。2005年に発足。同学群の学生による作品展示、患者対象のワークショップなどを企画している。今回の

展覧会では学生による写真や書道などの他、過去の活動記録も展示されている。活動記録では、小中大さん(平成22年度芸術修了)が09年に行った企画「ゴッホの病室」の病室「ゴッホ」の際の写真も展示された。「ゴッホ」は「いたすら好きの妖精」という意味の言葉で、この企画では小中大さん扮する「ゴッホ」博士が、病院内で身の周りのモノを擬人化した小さな人形(ゴッホ)を制作。そこを通りかかった患者ら院内の人々とのコミュニケーションを図った。小中大さんは「病院ゴッホ」をきっかけに「人と人対して向き合うことに真実を感じた」と話し、今後も病院アートの活動に意欲をみせた。また「自分がもの

## 院生の作品が多数出展 彫刻や絵画などが並ぶ

筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻博士後期課程の学生の作品を展示する「第10回DC展」が昨年12月25日から今年1月5日にかけて茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で開催された。会場には地域の住民や筑波大の関係者が訪れた。同展は、学生の研究成果を公開する取り組みの一環として2004年から開催されている。今回は、同専攻の学生15人が出品した46作品を展示。広々とした会場には、彫刻や絵画、書など多様な作品が陳列された。学生の中には、個展を開くなど「日ごろから作家として活動している者もあり、来場者は完成度の高い作品をじっくりと鑑賞していた。



巨大な作品に見入る来場者

## 筑波大学 出版会

「サービスサイエンスとはじめる」数理モデルとデータ分析によるイノベーション(高木英明 編著) 工業製品のものづくりからサービスの「ことづくり」に転換している今日のサービス産業で、生産性向上とイノベーションをリードするのがサービスサイエンスである。本書では、サービスシステムにおける顧客と従業員の満足度評価などの基礎となる、数理モデルとデータ分析の方法を応用例と共に独習できる。編者は筑波大システム情報系長。A5版、並製、約300頁。価格は未定。

「Climate System Study: Global monsoon perspectives」(Hiroaki UEDA) 本書は同出版会既刊の『気候システム論』グローバルモンスーンから読み解く気候変動の英文版。一部の図版と参考文献には最新情報を用いている。最新の地球温暖化予測とその解法などをデータを使って詳説する。執筆者は筑波大生命環境系教授。A5版変形、上製、約240頁。価格は未定。

が見られるのが良い。若さゆえの葛藤から生まれる迫力が表現されているように感じた」と語った。

付があるように装っている。無駄金を使わずに済む。もちろん研究だって、よりスマートに、よりエレガントに、よりスピーディーに進めることができればいい。目からうろこが落ち「なるほど」と膝を打ちたくなる内容である。生き物の形には数学が隠れている。単純な法則、数式を見て「美しい」と思うのは物理の専売特許ではないのだ。身近にいる生き物の形を見て、ぜひ感動してほしい。なお、気さくな文体で書かれていてほとんど数式も出てこないの、文系の方でも安心して読める。

## さまざまに曲を披露 約180人が耳を傾ける

アカペラサークルDoo・wopウインターライブ



アカペラを披露する団員

アカペラサークル「Doo・wop」が昨年12月28日、つくばカピオつくば市竹園「Doo・wop」のウインターライブで開催され、約180人の観客が団員の歌声に耳を傾けた。

今回の公演のテーマは「あたたかい冬の音色」。団員らは赤やオレンジなど暖かみを感じさせる電飾・パンフレットや、舞台上にテーブルとチェアを置いて家庭的な雰囲気を作り観客をもてなした。サークル内のオーディションで選ばれた5グループが舞台上に上がり、歌声を披露した。アカペラは楽器による伴奏がない、声だけで構成される合唱形態。今回のライブではフィンランドや日本などさまざまなジャンルの曲が歌われた。観客は盛り

上がる曲には手拍子をし、しつとりとした曲には目を閉じて耳をすませるなどしてライブを楽しんだ。曲の合間にコントを挟んで観客を笑わせるグループもあり、歌以外の趣向を凝らした演出にも、会場は大いに盛り上がった。来場した林奈々美さん(生物1年)と大川奈都美さん(同一1年)は、「最初の曲から引き込まれ、暖かみのある音楽に最後まで聞き入ってしまった」と話した。

この公演のプロデュースを務めた國分佳央里さん(数学2年)は「準備は大変なことがたくさんあったが、ライブが大成功に終わり、今はその苦労を忘れてしまおうという思い」と語った。(12面に関連写真)

## 混声合唱団第38回定期演奏会 3年生最後の舞台 涙する観客の姿も

筑波大学混声合唱団第38回定期演奏会が昨年12月15日、ノバホール(つくば市吾妻)で行われた。会場には開場前から多くの人が集まり、団員の美しい歌声に耳を傾けた。

演奏会は筑波大の学生歌「常陸野の」から始まった。前半のステージでは谷川俊太郎作詩の「生きる」など代表的な合唱曲を披露。曲



ノバホールで行われた定期演奏会

ごとに声の出し方や表現に変化をつけ、臨場感あふれる舞台を作り出した。後半のステージではフレンチ語のアカペラ曲などが披露され、ホールは荘厳な雰囲気包まれた。アンコールでは同演奏会で引退する3年生が泣き出す姿も見られ、観客の涙を誘った。

会場を訪れた同団の卒業生は「素晴らしい演奏会だった。声に一体感があり、曲の良さを最大限に引き出した」と感想を語った。団長の山室由美さん(人文3年)は「引退までであったという間だった。多くの人に演奏を楽しんでいただけてうれしく」と話した。



白井健郎

## 私の 生き物

理系でありながら数人が多くいるのが生物・農学系である。かく言う農学部卒の私も学部時代に物理の選択必修単位「波動」を一つ落としたため、とある研究所の就職最終面接で当時の研究所長(日本物理界の重鎮の先生だった)に、「君は物理が苦手かね?」とチクリと言われた。生物・化学系の研究室への就職面接だったので完全に盲点だったのだが、今考えても冷や汗ものである。その私が現在、大学教員をしている。「だから物理(数学、化学)がで

## 数式から見る生き物の形 波紋と螺旋とフィボナッチ

近藤滋著

は、身の回りで日々目にしている何気ないことの中にある「面白さ」に気が付き、感動できることだと思ふ。理系科目を学習することで得られる「なかなか気が付かないような面白い」さ。ちなみに生き物の模様ができるのは波動で説明できるという。私が大学時代に落とした単位も「波動」だった。ちゃんと勉強しておけば、もっと早く気が付いた(かも知れない)のに。(秀潤社) (生環系・准教授)

# 激動の1年を追う

★GPA 自転車登録制  
★二期制  
★学園祭日変更

二期制移行や新たな成績評価方法の導入。自転車・バイク登録制度の発足や学園祭日の変更……。今年度は筑波大学にとって新たな試みの多い一年だった。開学40周年に筑波大はどのように変わったのだろうか。「激動の一年」を振り返ると共に、来年度以降の筑波大の動向を探った。(望月麗二比較文化学類、新田萌夏、林健太郎II社会学類、添島香苗II生物学類)

## 新学長就任

授(医学医療系)が就任し、任期は2年間。「国際性の日常化」を旗印に、永田学長は「地球規模課題の解決に向けた知の創造と、これを牽引するグローバル



昨年の記者会見で決意表明を語る永田学長

人材育成」の推進を進めていく。昨年10月1日の開学40周年記念式典には江崎玲於奈元学長など著名人の招待客や、学内関係者ら約750人が参加。これまでの筑波大の活動を学内外に広報する機会ともなった。また併せて開催したT Suku ba Global Science Weekは、ヒューマンバイオリソープログラムと医学医療系が主催したセミナーで、化学や生命科学の観点から筑波大のグローバル人材育成に大きな影響を与えた。

2020年の東京五輪開催について永田学長は、体育、スポーツ医学、障がい学

## 「国際性の日常化」を目指す

## 二期制

学期制度を導入することは大規模な改革だったが、新たな学年層は順調に浸透しているようだ。

開学以来初めて導入された二期制。その現状を佐藤慶彦教育企画室長(生環系・教授)、教育推進課の関副課長に聞いた。

## 移行へ混乱なく

関副課長は「二期制導入による大きな混乱はななく、思いのほか円滑に進めることができた」と話す。全学群で同時に二

学などの分野で筑波大も貢献していくことを表明。また筑波大の国際化を目指し、来年度、文部科学省が公募する「スーパーグローバル大学」への準備を進めていくとしている。今年度から発足した留学支援などをを行うグローバル・コミュニケーション構についても、来年度4月1日から国際部や留学生センターなどと再構成を予定しており、「国際性の日常化」を目指していく。

## 施設整備

平成20年度に始まった筑波キャンパス内の建物の耐震工事が、今年度も進んでいる。この影響で2B棟1階及び2階の工事に伴い、事主に進むのは、鉄筋の支柱で建物を補強する工事だ。東日本大震災で中央体育館以外に各建物に大きな損傷が出ていないため、この工事と共に、教室の間取りの変更や空調の整備を進めてきた。筑波大学の場

合、耐震工事で各棟が立ち入り禁止となり、教員らの研究室が移動されたり、授業の教室が変更されたが、今のところ学内の施設利用に関する苦情はほぼないという。

## 2013年度の筑波大学

4月 新学長就任

春学期授業開始

10月 秋学期授業開始

自転車・バイク登録制度

40+101周年記念式典

11月 学園祭

## 耐震化工事 今後3年続く

耐震工事が行われている人文・社会学系棟



耐震工事が行われている人文・社会学系棟

震工事が続く。来年度は2B棟の3階と4階や人文・社会学系棟の残りの棟などで工事が行われる予定だ。また、医学エリアに「国際統合睡眠医学研究棟」が、春日エリアには「高細精医療イノベーション棟」がそれぞれ建設される。環境に配慮した大学を目指すため太陽光発電も徐々に取り入れる予定で、今年度は本部棟や5C棟の屋上に太陽光パネルを設置した。施設部の松崎憲隆部長は「施設の利用で(学生などに)不便をかけるが、将来的により良い大学施設にするために、協力してほしい」と話している。

## 自転車・バイク登録制度

昨年10月1日から、学内で自転車・バイクを利用する全ての学生・職員を対象に、自転車・バイク登録制度が導入された。筑波大学では開学以来、自転車の駐輪マナーが問題となってきたが、この制度の導入によりどんな変化があったのだろうか。

制度導入に先立ち、学生や職員は昨年9月30日までに大学に所有する自転車・バイクの登録を行い、ICタグを受け取る必要があった。昨年12月中旬時点で、登録台数は約1万3500台。



自転車の迷惑駐輪が後を絶たない3A棟前

そのうち、学生の登録台数は約1万1000台だ。学生総数が約1万6000人であることを考えると、登録率を考えると、登録は順調だと言えそうだ。

現在、学生生活課の職員らで毎日一人体制で学内を巡回。迷惑駐輪を発見する「まずは未登録者への対応が重要」という。

ICタグは今後、当事者の負担が増える一方で、値上げの可能性も高い。在学生は昨年の制度開始までに登録すれば、ICタグが無料で発行されたが、それ以降の登録や来年度以降の新入生の登録には1000円が必要だ。大学側は平成27年度にもICタグの値上げを検討しているが、これは、同年度から登録制度への国からの補助金が打ち切られるため、値上げ分は、学内の駐輪状況を見る職員らの人件費に充てられる予定だ。

駐輪マナーが悪い学生が多いと、巡回や自転車撤去などのために人件費が多くなり、値上げ額も上がる。同制度の今後は、学生の駐輪マナーがカギを握っている。



# 初の準優勝果たす 今後の活躍に期待

## 決勝戦は惜敗

第22回全日本大学女子サッカー選手権大会

第22回全日本大学女子サッカー選手権大会の決勝が1月19日、味の素フィールド西が丘(東京都北区)で行われ、筑波大学はなでしこリーグにも参加している強豪・吉備国際大学と対戦、延長戦の末1-2で惜しくも敗れた。筑波大が決勝戦まで進出したのは初の快挙となる。(林健太郎)社会学類1年、森脇慎二(同1年)



多くの筑波大生からの声援が送られる中、初の決勝進出を果たした筑波大の選手は躍動した。序盤は筑波大のペース。前半4分、筑波大はゴールからおよそ30歳の位置でフリーキックを獲得すると、瀬戸口(体専4年)が正確なキックでチャンスを出す。これは相手DF陣に阻まれるが、多くの選手がゴール前に飛び込み、積極性を見せた。



素早いドリブルで相手をかわす瀬戸口

だが左右から多彩な攻撃を仕掛ける吉備国際大が徐々に試合の主導権を握り始める。筑波大はシュートを体で止めるなど必死に守っていたが、前半34分、コーナーキックを頭で合わせられ、ついに先制を許す。その後も多くのシュートを打たれたが、GKの國香(体専4年)を中心に守り抜き、前半を0-1で終えた。

しかし延長戦は地方に勝る吉備国際大が攻め続ける。延長前半アディショナルタイム、ゴール右から落ちてきて決められ万事休す。惜しくも日本一は逃したものの、筑波大としては初の準優勝に、試合後には目に涙を浮かべながらも、応援していた筑波大生と笑顔で喜びを分かち合った。

試合後、三輪由衣監督は「今自分たちが出せる最大限の実力は発揮できなかったと思う。選手にお疲れ様と言いたい」と話した。(12面に関連写真)

「筑波大学は本場に粘り強いチームでした」。試合後のインタビュー。優勝した吉備国際大学の監督・選手から筑波大に賞賛の声が送られた。

多くの選手が攻撃に絡むまで試合のビデオを見て分析したこともあった。才能豊かな選手をスカウトできる私立大とは違い、筑波大は一般人が入ってこられる選手がほとんどで、個々に卓越した技術があるわけではない。それでも好成績を残せたのは、「個人の技術は、戦術で補うという意識をチーム全体で共有できている」(三輪由衣監督)ためだ。

大会中もミーティングを行い、問題点を修正した。準決勝で、縦パス一本で裏を狙う攻撃が目立っていたことを反省。決勝ではパスをつないで

2年生の時。インターハイでフルセットでデビューが続き白熱の試合の末、負けてしまったのだ。悔しかった。だがこの悔しさをバネに、3年生の時、念願の優勝を果たした。

筑波大を選んだのは、女子バレー部の中西康己監督(体育系・准教授)に声をかけてもらったから。強豪・青山学院大学に進学したい気持ちもあったが「強いチームに行くよりも、自分を必要としてくれるチームで戦いたい」と考えた。昨年度の関東大学バレーボールリーグ戦では、春季リーグこそベンチで先輩のプレーを見守ったが、秋季リーグでは早くもレギュラーの座に。セッターとして活躍した。昨年はクリスマスも返上して2泊3日の合宿に行くなどバレー漬けの日々だ。

## 男女共にベスト16 早稲田大に敗北 2連覇逃す



男子は2回戦から出場し、初戦、続く3回戦と快勝。4回戦に駒を進めた。4回戦では今大会で優勝した早稲田大と対戦。第1セットを20-25で奪われると、第2セットからは「相手のサーブに崩されないように」(秋山監督)と体育系助教(フォーメーション)を変え、2セットを25-15と大差をつけて取り返し、第3セットも25-21で逆転する。だが第4セットを落とすとして迎えた最終セットでは、エース出未由(体専4年)が足をつるアクシデントに見舞われた。出未由はその後本来のプレーはできず、早稲田大に反撃を許して敗北した。

男子は2回戦から出場し、初戦、続く3回戦と快勝。4回戦に駒を進めた。4回戦では今大会で優勝した早稲田大と対戦。第1セットを20-25で奪われると、第2セットからは「相手のサーブに崩されないように」(秋山監督)と体育系助教(フォーメーション)を変え、2セットを25-15と大差をつけて取り返し、第3セットも25-21で逆転する。だが第4セットを落とすとして迎えた最終セットでは、エース出未由(体専4年)が足をつるアクシデントに見舞われた。出未由はその後本来のプレーはできず、早稲田大に反撃を許して敗北した。



華麗にスパイクを決める筑波大

秋山監督は「いい試合内容だったが、負けてしまった。来季はインカレ優勝を目指して、一戦、一戦を大事に戦っていききたい」と語った。

女子は1回戦の道都大学に圧勝すると、続く東北福祉大学戦でも第1、3セットをそれぞれ27-25、25-21、25-13で取り、ストレート勝ちした。しかし、塵塵

体育大学との3回戦では、第1セットを先取したが、第2、4セットを18-25、21-25、16-25で奪われ敗退した。(12面に関連写真)



顔

昨年の東日本インカレで4位入賞を果たすなど、躍進が続く筑波大学女子バレー部で、1年生ながらセッターを務める選手がいる。高校時代はキャプテンとして神奈川県川崎市立橋高校をインターハイ優勝まで導いた塚田しおり(体専1年)だ。

バレーを始めたのは母親の影響。0才の頃から母のプレーするママさんバレーを見ていたという。小学生になると地域のクラブチームに所属し、彼女のプレーや身長を見た監督からセッターに指名された。セッター

中学、高校ではキャプテンを務め、練習の雰囲気づくりや声掛けも率先して行った。転機は高校

た。「勝つことが楽しいからバレーをしている。最後のインターハイでは勝ちにこだわった。」

1年生ながらセッターを務める



1年生ながらセッターを務める 塚田しおり(体専1年)

筑波大を選んだのは、女子バレー部の中西康己監督(体育系・准教授)に声をかけてもらったから。強豪・青山学院大学に進学したい気持ちもあったが「強いチームに行くよりも、自分を必要としてくれるチームで戦いたい」と考えた。昨年度の関東大学バレーボールリーグ戦では、春季リーグこそベンチで先輩のプレーを見守ったが、秋季リーグでは早くもレギュラーの座に。セッターとして活躍した。昨年はクリスマスも返上して2泊3日の合宿に行くなどバレー漬けの日々だ。

高校時代、全日本ジュニア候補に名前が挙がったこともあり、実力は十分。だが、「バレーは大学で辞めたい」という。将来の夢は体育の先生。「中学時代の恩師のよきな、厳しくもあるが、日常生活の相談に乗ってくれる熱血教師を目指したい」。バレーへの姿勢にも、体育の先生という目標にも、一貫している。「誰かに必要とされる存在でありたい」という強い思いだ。一度コートに立てば、その瞳は勝利だけを見つめる。「今の目標は関東リーグ戦での優勝。最終的には全日本インカレの優勝も狙っている」。今や女子バレー部にとっても、なくてはならない存在。勝利に対する真摯な努力で、今後も存在感を存分に発揮していくだろう。(姉崎信二心理学科1年)

## 必要とされる存在を目指して

必要とされる存在を目指して

必要とされる存在を目指して



# 国立大学初の大学選手権 決勝進出から1年……

## 筑波ラグビーを振り返る

【国立競技場で富田慎二日本語・日本文学類と二、鈴木拓也日本文学類2年】「勝てる試合だった。主将の内田啓介(体専4年)は試合をこう振り返った。昨年決勝で敗れた筑波大学。後半は風上に

帝京大学へのリベンジまで一歩。集中力を欠いた瞬間の隙を早稲田大学に突かれ、持ち味の「粘り」も見せられなかった。前半を8-10で折り返してペナルティを犯し、ハイ

【国立競技場で富田慎二日本語・日本文学類と二、鈴木拓也日本文学類2年】「勝てる試合だった。主将の内田啓介(体専4年)は試合をこう振り返った。昨年決勝で敗れた筑波大学。後半は風上に



相手の隙をついて攻める筑波大

### 「粘り」見せられず

それでも早稲田大に陣地に侵入することを許さなかった。焦りもブレッシャーもなかった(内田)と筑波大のペースのまま試合は進んだ。しかし、25分にペナルティを取られ、ボールの主導権が早稲田大に移ると流れは一転する。大きく右に展開され、筑波大は早稲田大に自陣への進入を許した。ゴールライン直前での早稲田大のペナルティを機に立て直しを図るが、29分にスクラムをゴールラインまで押し込まれ、8-15と離される。選手たちは陣陣を組み「もう一度集中していくぞ」との声が記者席にまで聞こえてきた。その直後の31分に山沢拓也(同一



陣を組むフィフティーン

年)がペナルティゴールを決め、11-15と追いつけた。だが、持ち前の「粘り」が試合終了まで続くことはなかった。「一点だけに集中し過ぎて他のところがあつそかになった」(福岡堅樹)「情科2年」。一瞬の隙を後までトライを奪うことはできなかった。福岡対策と

出が決まるといふ大事な試合だったが、筑波大は「筑波らしさ」の象徴である守備を徹底。流通経済大をトライに抑えた一方で、各選手がそれぞれ今年もまた日本一に手が届かなかったが、今大会は多くの観客が国立競技場に集まってきた印象的な試合だった。観客席では筑波大のスクールカラーであるフューチャーブルーの旗も振られた。「プレー中は聞かなくても」止まった瞬間に観客の声援が聞こえて、力になる。福岡堅樹が話すように、観客の声援が選手たちの活躍の原動力となるのは間違いない。

### 記者の目

#### 「筑波らしさ」で勝利目指す

#### 悔しさ糧に下級生に期待

記者の目 ちもぼつぜんとしていたように見えた。しかし次の試合となった関東大学対抗戦、早稲田大学戦(9月29日)ではそのミスが修正されて

準決勝には多くの観客が国立競技場に集まってきた。観客席では筑波大のスクールカラーであるフューチャーブルーの旗も振られた。「プレー中は聞かなくても」止まった瞬間に観客の声援が聞こえて、力になる。福岡堅樹が話すように、観客の声援が選手たちの活躍の原動力となるのは間違いない。



古川拓生 監督

「筑波らしさ」とは、(キーワード) チームとしての支え合い。プレーで言つとタックルとサポートを絶対大事にしようと言っている。自分の仕事を終えた時に仲間をたたく支えに行くこと。また、ディフェンスへの意識は本場に高いものを求めている。だから筑波は、引き締まったロースコアな試合が多い。

山沢拓也(体専1年) 深谷高出身) 今年の大学選手権決勝の早稲田大学戦で前半3分、先制のゴールを決めたのは逸材と評される山沢拓也だった。



相手のタックルをかわす山沢

昨年、決勝戦で敗れた帝京大学との再戦はならなかったものの、今年、全国大学ラグビー選手権大会で3年連続の4強入りを果たした筑波大学。下級生ながら、その躍進を支えた2人の注目選手を紹介する。(富田慎二日本語・日本文学類1年)

福岡堅樹(情科2年) 福岡高出身) 福岡堅樹は昨年の準優勝、今年の4強入りに貢献した主力選手だ。それだけなく、日本代表選



自慢の俊足でトライを狙う福岡

福岡の強みは走力だけではない。試合ごとに課題を見つけ出し、次の試合に生かそうとする冷静さと賢さも持ち合わせている。 1月2日の早稲田大戦では本来の動きはできなかった。それでも、試合後には前を見据えていた。「これからはチームを引っ張っていきたい」。エースとしての自覚を持ち、筑波大学を悲願の日本一へ導く中心となるのは間違いない。

# 本紙に感謝状贈呈



感謝状を受け取る平嶋記者(右)

筑波大学生の防犯意識向上などを求めるジャーナリズム活動が評価され、つくば中央署から1月、筑波大学新聞に感謝状が贈呈された。

同紙は大学周辺で発生し、一般紙が大きく取り上げていない犯罪の多さに着目。学生や大学職員ら、地域への情報提供を行うべく、一昨年に取材班を発足させ、同署やつくば市消防本部、大学周辺の組織、住民などへの取材を続けてきた。

## 学生の防犯意識向上に貢献

その結果、一昨年12月発行の304号では、大学周辺で多発する不審火事件について、原因の一端が学生が屋外に放置した洗濯物や新聞などの可燃物にあることを報じた。また、昨年4月発行の306号ではオートロックマンションでの「忍び込み」と呼ばれる窃盗事件の多発を特報。被害者の学生も多くが玄関のオートロックを通過し、自室の鍵をかけていなかったことに注意を促した。

このほか、昨年11月発行の310号では大学周辺の街灯が整備されていない路上などで夜、女子大生を狙ったわいせつ事件が前年の2倍に急増したと特報。これを機に「つくばは街灯を」のキャンペーンも展開している。一連のキャン

## 留学生の目



生活3年間に付いて述べたい。

入学する前にも筑波大学で日本語や数学の勉強をしていたため、入学した2011年4月にもあまりワクワク感がなかった自分は、単位を取るだけの生活をした。中学・高校でオーケストラをした経験があったので音楽のサークルにも入ろうとは思ったが、韓国に

つづいて来てから3年がたった。あつという間の3年間は、留学する前の自分と比べると有意義な時間を過ごせたと思う。今でも明確な目標を持っていないとは言えないが、以前の目標のない生活をしていたころよりは、少し成長したとも思う。本稿では自分の留学



## 勉強優先した大学生活

無事に早期卒業をするための条件を満たした。韓国出身である私には兵役があるため、2年間は準備しながら、卒業論文

とに後悔はない。誠実に講義を聞いたおかげで3年次になるまで成績は悪くはなかった。国に戻らなければならぬ。もちろん、その2年間が完全に無駄になると思われないが、それでも

を書くための準備もした。運が良かったのか、昨年の9月に東京大学から合格通知が来た。韓国の知人の司法試験合格や会計士合格などの話を聞くと、自分もより精進しなければならぬと思うようになる。筑波大の利点は他の学類の授業を自由に取れることであるが、他の人より1年早く卒業するため、卒業単位を取ることに精一杯になったことは少しもつたない。2年間の兵役の間今の自分に不足している勉強をして、修士課程でより深く勉強していきたいと思う。(社会学類・原文も日本語) 韓国出身、イラストレーター 田中 芸術専門学群3年

## イグノーベル賞受賞者が講演



タマネギの変色の実験について説明する今井さん

筑波大学生命環境科学研究所生物圏資源科学専攻が主催する第4回フード・セキュリティイグノーベル賞受賞者が1月16日、筑波大2B棟で行われた。セミナーでは筑波大の2期生で、2013年に「タマネギの催涙成分合成酵素の発見」でイグノーベル賞(化学賞)を受賞した今井真介さん(ハウス食品グループ)が講演。会場には約150人の参加者が訪れた。

「イグノーベル賞」とは別の酵素も必要になることが明らかになった。この結果、辛みや催涙作用を抑え、より風味のあるタマネギを作ることも理論上可能になったという。

今井さんは今回の受賞の教訓として「自分たちだからこそ気づけることに気づくかどうかが大事。身近なところから研究の題材はある」と話し、研究の楽しさを伝えた。

参加した女子学生は「子どものような純粋な好奇心から始まった研究だと思っただ。タマネギを切っている時に涙が出なくなるからといって、生活が劇的に変化するわけではないが、地道な研究を続け、評価されたのは夢がある」と語った。

## SMK株式会社代表取締役講演会

企業のグローバル化を語る 「新興国相手に企業戦略を」

SMK株式会社代表取締役の池田晴光社長の講演会が昨年12月4日、筑波大学総合研究棟Aで行われた。同社は「コネクタやタッチパネルなどを主な商品としており、生産や販売の拠点を各国に展開。特に中国やマレーシアを中心

に、現地の文化に特化した生産体制を確立している。講演では、同社の商品生産高の約7割をアジアが占めていることから、企業がグローバル化に対応するためには海外に生産拠点を置き、地域に密着した活動を行う必要があると説明。池田社長は「アジアへの進出は、他の企業と戦うために必要不可欠。新興国を相手にできる企業戦略を考えなければならぬ」と話し、自らの企業理念である「変化に対応する力」を訴えた。講演会を訪れたジャーナル・アカルさん(短期留学生)は「海外戦略の話を聞けてよかった。今後経済を学ぶ上で生かしていきたい」と語った。

## 出張！カシマサッカーミュージアム

筑波大学附属中央図書館 エントランスホールで昨年12月16日から行われていた「出張！カシマサッカーミュージアム」のイベントの一環として鹿島アントラーズ山村和也選手とのトークショー＆サイン会が12月26日、中央図書館集客室で行われた。これは昨年8月に筑波大と鹿島アントラーズが学術的提携に関する協定書に調印したことを記念して開催されたイベント。会場には約70人の参加者が訪れ、立ち見の見物者が出るほどの大盛況となった。

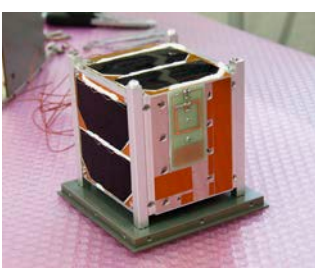


笑顔で話す山村選手

は、山村選手が流通経済大学の時代に抱いていた筑波大の印象や、自身がどんな学生だったかなどが話題となった。また、筑波大から鹿島アントラーズへ入団した赤崎秀平選手についても「今日筑波大に行くんだと報告しよう」と電話したのに、赤崎くんは出してくれなかった」と話すと、会場は笑いを誘った。

後半の質疑応答の時間には、大学時代の思い出や今後の展望についての質問が寄せられ、山村選手は終始和やかな様子で参加者との交流を楽しんだ。

## 人工衛星「結」内覧会開催



工学学域によって設けられた学生中心のプロジェクトチームが開発した。宇宙では衛星内部の温度や、バッテリーの状態などのデータをモジュールで地球に送信する。小型のトランシーバーとアンテナがあれば、誰でも衛星からの信号を受信できるのが特徴だ。

## 2月に打ち上げへ

「結」の開発には設計から電子回路の製作、通信技術の構築などほぼ全行程に学生が携わっており、学外でも話題を呼んでいる。「結」はJAXAの衛星と共に打ち上げられる。

内覧会では、「結」の実物をお初めに公開。永田学長が激励の言葉をかけるなどして学生と交流を深めた。プロジェクトチームの野中淳司さん(エシス4年)は「完成まで、地味な作業に励んできた。ようやく日の目を見ることができた。き、うれし」と感慨深げに語った。(12面に関連写真)

山村選手は「大学サッカーの良い点は、いろいろなことにチャレンジできる点。みんなも大学時代にしかできないことを楽しんで」と話した。イベントの最後には参加者の中からじゃんけん勝ち抜いた20人に山村選手のサインが贈られた。会場は盛り上がりを見せた。

# 筑波民各位!



## 追越・一の矢で廃止へ 業者の経営悪化が原因

来年度から、筑波大学の「廃止されるほか、平砂共 170円から180円に値上げし、営業時間が短縮さ

学生生活課は、宿舎近隣に銭湯などの施設が無いことなどから継続を求めているが結局追越・一の矢地区の浴場の廃止などが決まった。学生生活課は対応策として追越宿舎の学生に平砂共用棟浴場の利用を促す他、一の矢宿舎居住棟や一の矢生活センターのコインシャワーの整備を進めることを検討している。

学生生活課の大手昇一専門職員は「浴場廃止は残念だが、継続運営される平砂

# 筑波大学方面のバス 深夜便を3便増発



東京駅からの深夜高速バスと同型のバス

## 社会工学類生が考案 最終便は1時15分発に

東京駅発の筑波大学中央行き深夜高速バス便が1月14日から、つくばセンター到着後、大学方面へのバスとして利用できるようになった。これまで同便は終点まで途中で乗車できなかったが、センターでの乗車が可能になり、22時40分発だったセンター発の大学方面行きバス最終便が事実上、1時15分発となった。筑波大社会工学類の学生が授業の一環として提案、実現したもので、新たな大学方面行きの深夜の交通手段になりそうだ。

新たにつくばセンターで乗れるのは23時25分(東京駅発22時20分)、0時5分(同23時)、1時15分(同0時10分)到着の各便。センター到着後、大学方面への乗車が可能になり、現在の22時40分発の定期運行バス最終便以降、大学方面へは3便の増発となる。

センター乗車後、降車できるのは「筑波大学病院」と「学生会館」の「筑波大学中央」。運賃は深夜バス料金で、センターから各降車場までそれぞれ300円、400円、

500円だが、学内路線バス定期券を利用すると一律260円の割引となる。東京駅から筑波大学までの高速バスは関東鉄道とJRバス関東が運行するが、今回実施されるのは関東鉄道運行の便だ。

これまでも学生などの間で「深夜につくばセンターから大学方面への交通手段がなく不便だ」という声が上がっていたが、「都市計画実習」(谷口守教授)シ

シャワーが整備されたことで利用者は激減し、業者の経営は悪化。昨年9月業者側が浴場経営からの撤退を正式に求めている。

学生生活課は、宿舎近隣に銭湯などの施設が無いことなどから継続を求めているが結局追越・一の矢地区の浴場の廃止などが決まった。学生生活課は対応策として追越宿舎の学生に平砂共用棟浴場の利用を促す他、一の矢宿舎居住棟や一の矢生活センターのコインシャワーの整備を進めることを検討している。

学生生活課の大手昇一専門職員は「浴場廃止は残念だが、継続運営される平砂



廃止が決まった一の矢共用棟浴場

# 学内循環バス定期券値上げ 予定より増額へ 消費税増税の影響

筑波大学筑波キャンパス内を走行する循環バス定期券の利用率について、来年度からの値上げに関する説明会が昨年12月から1月にかけ開催された。その中で、以前発表された値上げ後の予定額8400円より、利用料が更に高くなること明らかになった。今年4月からの消費税引き上げに伴うものだという。

1月10日に学内で開かれた第2回説明会での東照雄副学長、高岡利嗣学生生活課長らの説明によると、バスを運営する関東鉄道株式会社は消費税増税で4月からの値上げを計画。それに伴い、循環バス定期券の利用料金の値上げも確実だという。上げ幅はまた分からないが、副学長らはできるだけ早く公表する意向を示した。

バス定期券の現在の正規料金は年間1万8700円。だが、筑波大が関東鉄道から定期券を6000円一括購入し、学内では8400円で販売してきた。また学生については負担を減らすため筑波大が更にこの半額を拠出、4200円で販売している。

だが来年度からは、その負担総額約3000万円を、授業料免除のための予算や、奨学金「つくばスカラシップ」に回す予定で、これを受けて当初大学側は今後の学生向けの料金が8400円になると公表していた。

# 茶道同好会

茶道同好会は毎週月・水曜日活動日だ。月曜日は部員だけで稽古に取り組み、水曜日は外部から講師を招く。年に数回のお茶会では、和服で学外の人ももてなす。

彼らが茶を点てるのは、茶を客に振る舞うという動作の中に、人を思いやり、自然を愛する心を見出すためだ。作法は稽古前

# 「外交―その表舞台と裏舞台」 元外交官が安全保障を解説 国際問題を深く考える

筑波大学「人間の安全保障」水野元大使が、水野達 使を招いた講演会が昨年12月11日に筑波大学総合研究棟Aで開かれた。「外交―その表舞台と裏舞台」と題された講演会には、学生や教職員約40人が訪れた。

水野元大使は北京での勤務経験を踏まえ、近年の日中関係の悪化に際し、尖閣問題について重点的に解説。中国の公文書や、人民日報の過去紙などの資料を用いながら歴史的・国際法的にも尖閣諸島が日本固有の領土であることを示した。また中国共産党の権力闘争事情や、防空識別圏の設定、国際司法裁判所の管轄権についても説明した。

質疑応答の時間では、中国人留学生が資料の歴史的から始まる。同好会が属する専科では最初にまじり正座で先生や他の部員にあいさつ。さらに「道を修めなほ励みつつも初心を忘れぬように」「他人を愛する事なくいつ



外交問題について語る水野元大使



道の奥深さに触れる

道(ちの)の稽古に参加した。茶も思いやりが先に立つように「なご、茶道を行う上で心構えを声に出して確認する。次に飲むのが千利休の百首。千利休が和歌の形をとって茶道の精神をまとめたものに腕は疲れ、正座は約

道(ちの)の稽古に参加した。茶も思いやりが先に立つように「なご、茶道を行う上で心構えを声に出して確認する。次に飲むのが千利休の百首。千利休が和歌の形をとって茶道の精神をまとめたものに腕は疲れ、正座は約

月11日に筑波大学総合研究棟Aで開かれた。「外交―その表舞台と裏舞台」と題された講演会には、学生や教職員約40人が訪れた。

水野元大使は北京での勤務経験を踏まえ、近年の日中関係の悪化に際し、尖閣問題について重点的に解説。中国の公文書や、人民日報の過去紙などの資料を用いながら歴史的・国際法的にも尖閣諸島が日本固有の領土であることを示した。また中国共産党の権力闘争事情や、防空識別圏の設定、国際司法裁判所の管轄権についても説明した。

質疑応答の時間では、中国人留学生が資料の歴史的から始まる。同好会が属する専科では最初にまじり正座で先生や他の部員にあいさつ。さらに「道を修めなほ励みつつも初心を忘れぬように」「他人を愛する事なくいつ

筆者も人生初となる茶

「正座は一時間以上続けても平気。また、稽古のときは相手を思いやり、姿勢を崩さないよう心がけている」と部員の宮部祥代さん(社会学1年)は笑顔で話す。

先生と真剣に稽古に励みつつも、時折、和気あいあいと語りながら楽しんで稽古に向き合う部員の姿が印象的だった。会長の松尾寛子さん(芸専3年)は「お茶で一服し心地よい休憩をするために同好会へと足を運ぶ」と話す。

茶を振る舞うための様々な作法。そこには日本の文化が詰まっています。茶道同好会に「雅な世界があった。(林健太郎)社会学類1年」

# Who's Who?

「つくばショートムービー」でグランプリ

## 高島瑛彦さん (情報創成4年)



第四学群の衣装で学内に登場する高島さん

主人公の男子学生は、2月14日に大規模なデモを起す。人質は女子学生、要求は「手作りのチョコレート」。バレンタインデーに自分だけチョコレートをもらえないことを恨む男子学生と、学内の秩序を守る特殊部隊「学生支援室」の攻防の行方は――。

主人公の男子学生は、2月14日に大規模なデモを起す。人質は女子学生、要求は「手作りのチョコレート」。バレンタインデーに自分だけチョコレートをもらえないことを恨む男子学生と、学内の秩序を守る特殊部隊「学生支援室」の攻防の行方は――。

ジャンクション」でも東映ビデオ賞を受賞するなど、各方面から高い評価を受けている。作品は一年生の時に受講していた映像制作の授業課題だった。「自身の経験をヒントに脚本を書いた」という。他の4人の受講生とチームを組んで映画制作をした。撮影には広大な敷地を誇る筑波キャンパスを活用し、役者は学内の劇団サークルに依頼。編集には独学で身につけたコンピュータグラフィックスの技術を使い、爆弾の爆発など派手な演出も試みた。同授業は芸術専門学群3・4年生向けだったが「REAL」は担当教員や受講生から高い評価を受け、その存在は学内外に知れ渡った。昨年は「つくば」に応募するために2カ月の追加撮影と再編集を行った。

## 映画制作に注ぐ情熱 サプライズで日常を楽しく

連続出場するなど映像制作に明け暮れる日々を送った。その情熱と実績を武器に、AC入試で筑波大に合格。情報メディア創成学類でメディアやプロダクションの勉強に励んだ。「REAL」の制作をきっかけに、高島さんは2年生で映像サークル「Xion-labor」を立ち上げた。活動は、映像広告から70分の長編ホラー映画の制作まで多岐にわたる。現在制作中の長編作品「終末」は、電車や映画館を貸し切った撮影やプロの俳優を起用した大作で、今年の春に公開予定だ。この映画制作で学んだことは、人とのかわり方。撮影許可を得るためには地元の方に交渉する必要があるし、役者も知人の紹介がほとんど。たくさんの人の理解と支えが次の作品制作にもつながる。映画は決して一人で制作できるものではないと感じた。これまでの活動を振り返る。

その活動は映像制作にとどまらず、自ら主導する「第四学群」の活動は学内で大きな反響を呼んだ。旧学群制度で実際には存在しなかった第四学群は学生から「幻の学群」と呼ばれ、学生間でさまざまな冗談や「都市伝説」に登場する。高島さんはこの噂を基に、「REAL」に第四学群を秘密裏の部隊として登場させ、作品完成後はそこで使用した黒つめの衣装をまとい、仲間と学園祭などのイベントに参加している。「学校という日常に『ちょっとしたサプライズ』があったら毎日楽しくなると。思いっきり始めた活動だというのが、今では学内に突如現れる黒くめ集団を「筑波大でしか会えないキャラクター」と楽しみにする学生も多い。

今は大学院への進学を検討。「卒業する前に、ぜひ続編『REAL』を制作したい」と話し、大学生活を最後まで謳歌したいと考える。一人の学生のユニークな発想と行動力は、筑波大の「楽しい明日」へと続く。(望月麗二比較文化学類2年)

### らちわ話

★引退記者からひとこと★  
▼「鬼デスク」とはかけ離れた私の元で、部員はのびのびと活動していきなりました。だからその良い紙面ができたのかな。ありたい。草食先輩から引き継いだトッパニスト(今命色の座は、任せたまへ！皆ありがと。がんばってね！)ぼよん。▼入学して2年半、そして引退、あつという間だった。(なか)▼部員と先生、広報室の方に支えられ、数多くの取材をして世界が広がった。思い出された。(p.9)

次号は  
**4月7日(月)**  
発行予定です

## Doo-Wop ウィンターライブ



美しい歌声を響かせる団員

5面へ

## 全日本大学女子サッカー選手権大会



フリーキックを蹴る瀬戸口

8面へ

## 全日本インカレ

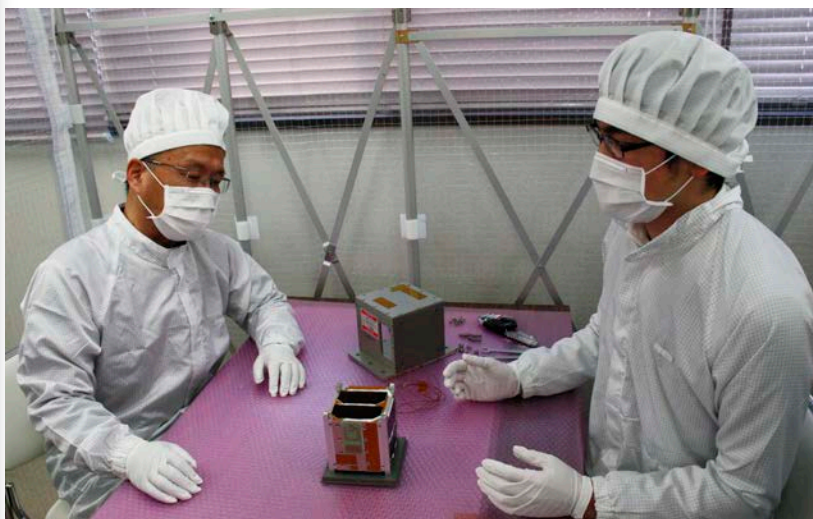


提供=男子バレー部

力強くアタックする筑波大

8面へ

## 人工衛星「結」内覧会



「結」について説明をする学生(右)

10面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活